

2003年3月4日

**駅の時間と空間をデザイン
ステーションルネッサンスで駅が進化します。
立川駅は緑あふれる憩いの広場、
大宮駅は賑わいの大通りと散策の遊歩道**

JR東日本が推進する、21世紀のあたらしい駅づくり「ステーションルネッサンス」を中央線の拠点ターミナル駅立川駅と、新幹線分岐点である首都圏北部拠点ターミナル駅大宮駅で実施します。

「通過する駅から集う駅へ」をコンセプトに、単なる乗降施設ではなく、お客さまが時間を消費する生活の1シーンとしての顧客視点から、新しいライフスタイルの提案と駅空間の革新を大胆に個性的に進めていきます。

具体的には、線路上空に人工地盤を建設して新しいコンコースを設け、バリアフリー化や混雑緩和を推進して、ゆとりある快適な駅空間を実現します。また、お客さま用トイレや案内サインなどの駅設備を環境デザインのなかでトータルに見直し、わかりやすく利用しやすい従来にない駅づくりを行います。

同時に、お客さまの利便性の向上と駅周辺地域の活性化を目的として、駅構内に新たに店舗を開発し、駅からの情報発信を推進していきます。

立川駅リニューアルの概要

ホームや既存コンコースの混雑緩和を目的として、南北自由通路の八王子方に新しいコンコースを設けます。

新コンコースには、エスカレーターを新設して、駅を利用されるお客さまの利便性の向上を図るとともに、新改札口を整備して、都市の玄関としての機能を充実し、地域の回遊性を創出します。

新しく創出される駅空間は自然感覚あふれるデザインとし、これまで混雑と雑踏のイメージだった駅を、「マイホームタウンの駅」としてゆとりとやすらぎを演出していきます。インフォメーションセンターの機能拡充や、パウダールームや保育施設などの女性やお子様のためのくつろぎの施設を備えて、毎日の生活のサポート機能を高めます。

駅構内に新たに開発する店舗は、駅ならではの利便性を充実する一方、立川地域に来訪されるお客さまの期待感を盛り上げるウェルカムゲートとして情報発信します。

(1) 計画内容

コンコースと改札口(2箇所)を新設

エスカレーター(上下)6基増設

パウダールームの新設(1箇所)、多機能トイレとお客さま用トイレの増設(1箇所)

インフォメーションセンター多機能化、案内サインや出改札などの駅設備改良

保育施設新設

魅力ある商業空間の創出

(2) 規模

増築床面積 約 15,000 m²

(3) 開業予定

2005年春

大宮駅リニューアルの概要

南改札内コンコースに人工地盤を建設し、新たにコンコースを整備して従来の乗換コンコースと併せてゆとりある快適な駅空間を実現します。

すべてのホームにエスカレーター、エレベーターを整備してバリアフリー化を進めます。駅空間デザインは、人や情報が集まり交差する駅を、人々が憩い賑わうダウンタウンと捉え、新旧2つの乗換コンコースのデザインコンセプトをそれぞれアベニュー(大通り)とウォーク(遊歩道)として、趣きの異なる個性を際立たせた環境を創出します。

お客さま用トイレを改装増設するほか、新幹線乗換出札窓口の視認性の高い位置への移設や、案内サインや出改札などの駅設備の見直しを実施して、わかりやすく利用しやすい移動空間づくりを推進します。

駅構内に新たに開発する店舗は、通勤通学のお客さまを対象として利便性を向上するほか、新幹線ご利用のお客さまや大宮地域に訪訪されるお客さまに対してはターミナル駅にふさわしい魅力あるサービスを提供します。駅リニューアルにあわせて、駅ビル「ルミネ大宮」を増床して、顧客満足度の一層の充実を図ります。

(1) 計画内容

コンコースの新設

エレベーター10基(新幹線3基・在来線7基)、エスカレーター(上下)14基を増設
多機能トイレ、パウダールームの新設(各3箇所)、お客さま用トイレの改装(2箇所)
と増設(1箇所)

案内サインや出改札などの駅設備改良

魅力ある商業空間の創出

(2) 規模

増築床面積 約9,000 m²

(3) 開業予定

2005年春

【参考】

[立川駅のデータ]

1日平均乗車人員	140,629人(2001年度)
列車本数(平日)	1,318本
開業	1889(明治22)年4月
現駅施設	1982(昭和57)年10月 橋上駅舎化

[大宮駅のデータ]

1日平均乗車人員	227,835人(2001年度)
列車本数(平日)	新幹線 298本、 在来線 1,349本
開業	1885(明治18)年3月
現駅施設	1982(昭和57)年東北新幹線大宮駅暫定開業時に橋上駅舎化